

序

本書は、CT (computed tomography) やMRI (magnetic resonance imaging) 検査を中心に、顎・歯・口腔の様々な症例画像を供覧し、画像診断、治療方針および予後などに関する知見を体系的・効率的に修得する1冊です。

顎・歯・口腔領域は、歯科および医科のいわゆるクロスロードとなる領域であり、従来から口内法・口外法を中心とした単純X線検査と、パノラマX線検査が主でありました。しかしながら、CTやMRI検査が普及し、これら先進的な画像検査を日常診療に利用する一般医科・歯科開業医も急増しています。特に歯科領域においては、口腔インプラント治療や修復補綴関連の治療にも、CBCT (cone beam computed tomography) の利用が進み、自院へのCBCT導入、または、大学病院や専門病院に画像検査を依頼し、それを利用する一般開業医の先生方も非常に増えてきました。

一方、我々が対応する顎・歯・口腔領域疾患は、菌原性、非菌原性、顎骨や粘膜由来の病変も含め多様な組織から構成されるため、先進的な画像検査や診断法を用いても鑑別診断が困難な症例に遭遇し、治療に苦慮することがあります。これらへの対応としては、疾患の良悪性の鑑別も含め、術前診断と進展範囲が非常に重要であり、そのためには治療方針および予後も熟知しなければなりません。しかしながら、顎・歯・口腔の画像診断、治療方針および予後を、1冊で効率的に修得する本は大変乏しいのが現状でした。

この状況を踏まえ、本書はパノラマX線写真、CT、MRI、CBCTなどを中心とした先進的な画像を多数掲載し、これら領域のすべての画像診断、治療方針、各検査法の基本的な原理および効率的な検査の進め方などの日常臨床に直結する実用的情報を、各エキスパートの先生方にご執筆いただきました。また、単なる疾患解説ではなく、画像を見るだけでもできるだけ理解できるよう、イラストも多用し、わかりやすく記載しました。

本書は、医科・歯科学生、研修医から、すでに専門医として最前線で顎・歯・口腔の診療をされている先生まで、日常診療のかたわらに置いて容易かつ有益に利用できる必携の書と考えています。本書を利用して、読者が同領域の画像診断に精通し、よりの確な顎・歯・口腔の治療を行う一助になれば幸いです。

最後に、我々の要望を快く受け入れ、熱意をもってご執筆いただいた先生方、丁寧な編集作業をしていただいた学研メディカル秀潤社 画像診断編集室の皆さんに深謝申し上げます。

2017年6月

金田 隆, 中山秀樹, 平井俊範, 生嶋一朗